











































































■河道、堤防等については、様々な条件下で生じた過去の変状・被災、それらに対する災害復旧や維持修繕等の履歴から得られる知見を蓄積し、それらの経験に基づいた管理を行っている。

■縦横断測量



■堤防点検



■河川巡視

動物による穴の形成



経験の蓄積

■堤防以外の河川構造物として、堰や水門・樋管、排水機場などの様々な河川管理施設が設置されている。

■初期の状態や所要の機能に生じる劣化に対して、点検・補修等の一連の管理を実施している。

堰

水門

樋管

排水機場

10

床止め

閘門

# 河道・河川構造物の管理の特質

## ■ 施設の特徴に応じ管理水準を持続するための計画的な管理



過去の経験の蓄積に基づく管理技術

統計や工学に裏付けられた管理技術

引き続き状態を診ながら予防保全又は事後保全を行っていく

現在の時間計画型から、今後は状態監視型の予防保全へ移行していく（一部事後保全）

# 河川の管理技術の再構築

■ 「経験の蓄積に基づく管理技術」と「統計や工学に裏付けられた管理技術」の2つの側面から高度化していくことが必要。

- \* 「管理経験者」の活用を図りながら、管理技術を「管理職員」に継承する仕組み
- \* 管理を担う官民の技術者の確保
- \* 管理経験者・専門家等からの助言体制
- \* 管理データのデータベース化
- \* 管理実務の合理化・高度化の取組みの推進
- \* 河道と施設を一体的な河道システム、堤防を連続したシステムと捉えた管理
- \* 計画・設計・施工・維持管理を通じた一連システムを通じた管理
- \* 個々の河川レベル、全国的なレベルの双方における戦略的なマネジメント  
(社会資本整備審議会河川分科会「安全を持続的に確保するための今後の河川管理のあり方検討小委員会」)

# まとめ

- \* 河川の管理の主要な対象である河道・堤防の特性は次の通りである。
  - \* 自然公物である河道は、常に変化しており、特に洪水により大きく、想像を超える変化が生じることがある。
  - \* 堤防は、断面、区間ごとに特性が異なるが、状態把握が困難である。しかも、河道の変化により堤防の状態も変化する。
- \* 河道・堤防の管理においては、その特質から経験の蓄積に基づく管理技術が適用されている。
- \* その他の河川構造物を中心に、統計や工学に裏付けられた管理技術が適用されている。
- \* 管理水準を持続的に確保するためには、管理技術に応じた技術の再構築が重要。